

## 老いて旧山陽道を歩く

NPO 法人 いきいき 35  
事務局長 皆本 義典



NPO 法人「いきいき 35」は設立 9 年目を迎えますが、私は当初より事務局長をさせて頂いています。初代理事長 福富薫氏、2 代目 石村和寿氏を中心に「土木技術経験者に何が出来るか」をテーマに幾度となく議論を重ねているが、自治体の雇用環境の動向に対応した検討が必要で多くの壁に直面した手探状況が続いています。又、NPO 法人を活用する事の利益性・利便性の良さについて認識の無さに接することもあるが、我々の PR 不足と受け止めそのひとつとして自治体との意見交換会をお願いし、将来起こりうる問題点を検討テーマとし議論しています。いつかは必ず注目される時代が来る事を信じ日々の活動を行っています。

私ごとではありますが、退職後は友人の紹介で自宅にてできる個人事業を細々と営んでおります。日々の業務もお客様以外に誰からも束縛を受けることなくすべて自己責任の環境に身を置いており、私にとっては良い刺激となっています。一方、起業目的の一つに小さな子供さんを持たれた女性に働く機会を作ってあげることでしたが、設立して 5 年が過ぎましたがいまだ達成できない状況です。簡単ではないと思っていましたが計画通りに行かないこともあり、サラリーマン時代には出来なかった経験をしております。改めて日本の中小企業の社長さんの経営努力には頭が下がります。

ところで数年前から、私の前職の上司と（注）萩往還（萩～防府）を 2 泊 3 日で完歩し、旧道歩きの味を覚え、NPO 法人仲間に山口県内の旧山陽道（岩国～下関 160km）を歩く提案をしたところ、4 氏の賛同を得て、平成 26 年 11 月 26 日に初回区間をスタートし、現在まで計 12 回実施して街道完歩まで、最終区間（下関小月～終点下関亀山神社）の 14km を残すところまで来ました。

当初早々に終わると思っていましたが、5 名の日程調整、体力の衰え、さらに基本ルールとしてスタート～終点は歩き以外は公共交通機関の利用を条件としており、時間的な制約のなか想像以上に時間がかかっています。何気なく使っていた地名の由来、往時の足だけを頼りに往き来していた人々の暮らしぶりや古いまち並のなごりから当時のにぎわいを想像することができました。

また地図を見ながらの歩きでも道に迷うなど、日々の生活の中では体験できない貴重な経験をしました。今後についても、新たな旧道歩きにチャレンジしたいとの声もあり検討中です。

山口県では明治維新 150 年特別企画として、「古地図を片手に、まちを歩こう。」（古地図を眺めながら、地元ガイドの案内でまち歩きを楽しめるガイドウォークを山口県内および島根県益田市 29 か所で実施する。）をキャンペーン中です。

（注）萩往還：毛利氏が慶長 9 年（1604）萩城築城後、江戸への参勤交代での「御成道（おなりみち）」として開かれました。日本海側の萩（萩市）と瀬戸内海側の三田尻港（防府市）をほぼ直線で結び、全長はおおよそ 53km、幕末には、維新の志士たちが往来し、歴史の上で重要な役割を果たしました。



関戸スタート前